

九段中等教育学校に入学を希望する皆様へ

**保護者の皆様と新入生からのメッセージ
～学校選択アンケートから～**

**令和元年度
千代田区立九段中等教育学校**

目 次

平成 3 1 年度入学 1 6 回生	
保護者対象学校選択アンケート集計結果	2
新入生アンケート集計結果	5
保護者の皆様からのメッセージ	
区分 A	6
区分 B	1 5
新入生からのメッセージ	2 7

平成31年度入学 16回生
保護者対象学校選択アンケート集計結果
新入生アンケート集計結果

保護者対象学校選択アンケート集計結果

平成31年度入学16回生 回収159、回収率99%

＜小学校時代の学習塾や通信教育などの利用＞ (複数回答有)

	区分A79人中		区分B80人中		計159人中	
学習塾	71	90%	77	96%	148	93%
通信教育	24	30%	23	29%	47	30%
家庭教師	3	4%	3	4%	6	4%
いずれの利用もなし	1	1%	0	0%	1	1%
計	99		103		202	

＜学習塾の利用目的＞ (複数回答有)

	区分A71人中		区分B77人中		計148人中	
公立中高一貫教育校対策	53	75%	58	75%	111	75%
私立校受験対策	18	25%	23	30%	41	28%
学習の機会を増やすため	13	18%	9	12%	22	15%
未回答	0	0%	1	1%	1	1%
計	84		91		175	

＜学習塾の利用期間＞ (複数回答有)

	区分A71人中		区分B77人中		計148人中	
半年以内	5	7%	4	5%	9	6%
半年～1年	17	24%	12	16%	29	20%
2年	20	28%	32	42%	52	35%
3年	18	25%	23	30%	41	28%
それ以上	9	13%	6	8%	15	10%
未回答	2	3%	1	1%	3	2%
計	71		78		149	

＜通信教育の利用目的＞ (複数回答有)

	区分A24人中		区分B23人中		計47人中	
公立中高一貫教育校対策	7	29%	19	83%	26	55%
私立校受験対策	0	0%	6	26%	6	13%
学習の機会を増やすため	17	71%	13	57%	30	64%
未回答	0	0%	1	4%	1	2%
計	24		39		63	

＜通信教育の利用期間＞ (複数回答有)

	区分A24人中		区分B23人中		計47人中	
半年以内	0	0%	4	17%	4	9%
半年～1年	5	21%	6	26%	11	23%
2年	7	29%	6	26%	13	28%
3年	2	8%	1	4%	3	6%
それ以上	10	42%	9	39%	19	40%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
計	24		26		50	

＜家庭教師の利用目的＞ (複数回答有)

	区分A3人中		区分B3人中		計6人中	
公立中高一貫教育校対策	0	0%	0	0%	0	0%
私立校受験対策	3	100%	2	67%	5	83%
学習の機会を増やすため	0	0%	1	33%	1	17%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
計	3		3		6	

＜家庭教師の利用期間＞ (複数回答有)

	区分A3人中		区分B3人中		計6人中	
半年以内	1	33%	1	33%	2	33%
半年～1年	0	0%	0	0%	0	0%
2年	0	0%	1	33%	1	17%
3年	2	67%	0	0%	2	33%
それ以上	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	1	33%	1	17%
計	3		3		6	

＜模擬試験の利用＞

		区分A79人中		区分B80人中		計159人中	
公立中高一貫模試	利用した	66	84%	73	91%	139	87%
	利用しない	13	16%	6	8%	19	12%
	未回答	0	0%	1	1%	1	1%
私立中学模試	利用した	30	38%	34	43%	64	40%
	利用しない	49	62%	31	39%	80	50%
	未回答	0	0%	15	19%	15	9%

＜本校のことを知った時期＞

	区分A79人中		区分B80人中		計160人中	
6年秋以降	2	3%	3	4%	5	3%
6年夏以前	1	1%	8	10%	9	6%
5年	4	5%	19	24%	23	14%
4年	9	11%	20	25%	29	18%
それより以前	63	80%	30	38%	93	58%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

＜本校の受検を決めた時期＞

	区分A79人中		区分B80人中		計160人中	
6年秋以降	14	18%	21	26%	35	22%
6年夏以前	6	8%	23	29%	29	18%
5年	18	23%	22	28%	40	25%
4年	11	14%	11	14%	22	14%
それより以前	28	35%	3	4%	31	19%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

＜本校の学校説明会に初めて参加した時期＞

	区分A79人中		区分B80人中		計160人中	
6年生秋以降	13	16%	11	14%	24	15%
6年生夏以前	17	22%	20	25%	37	23%
5年生	31	39%	35	44%	66	42%
4年生	11	14%	8	10%	19	12%
それ以前	1	1%	1	1%	2	1%
参加していない	3	4%	4	5%	7	4%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

＜参加した本校の広報行事＞		（複数回答可）			
	区分A79人中		区分B80人中		計159人中
学校説明会	75	95%	73	91%	148 93%
学校公開	33	42%	34	43%	67 42%
その他	10	13%	22	28%	32 20%
計	118		129		247

＜本校の受検を決めた理由＞		（3項目まで）			
	区分A79人中		区分B80人中		計159人中
教育方針	48	61%	46	58%	94 59%
交通の便	38	48%	18	23%	56 35%
学校周囲の環境	9	11%	12	15%	21 13%
在校生の様子	17	22%	16	20%	33 21%
偏差値	3	4%	2	3%	5 3%
施設	12	15%	16	20%	28 18%
授業の様子	1	1%	2	3%	3 2%
教職員の熱心さ	7	9%	4	5%	11 7%
共学校	3	4%	7	9%	10 6%
部活動	6	8%	10	13%	16 10%
給食があるから	4	5%	0	0%	4 3%
学習内容	15	19%	13	16%	28 18%
知人のすすめ	3	4%	4	5%	7 4%
学費	13	16%	7	9%	20 13%
キャリア教育	4	5%	14	18%	18 11%
学校行事	3	4%	9	11%	12 8%
制服	1	1%	1	1%	2 1%
本人の強い希望	33	42%	39	49%	72 45%
兄・姉が通っている	7	9%	3	4%	10 6%
英語教育	16	20%	7	9%	23 14%
大学進学実績	2	3%	1	1%	3 2%
担任の先生の勧め	0	0%	0	0%	0 0%
その他	4	5%	1	1%	5 3%

＜参加した他の学校の説明会＞		（複数回答可）			
	区分A79人中		区分B80人中		計159人中
都立白鷗高等学校附属中学校	3	4%	28	35%	31 19%
都立両国高等学校附属中学校	2	3%	18	23%	20 13%
都立富士高等学校附属中学校	1	1%	3	4%	4 3%
都立大泉高等学校附属中学校	0	0%	2	3%	2 1%
都立武蔵高等学校附属中学校	1	1%	2	3%	3 2%
都立小石川中等教育学校	3	4%	27	34%	30 19%
都立桜修館中等教育学校	0	0%	6	8%	6 4%
都立南多摩中等教育学校	0	0%	0	0%	0 0%
都立立川国際中等教育学校	0	0%	0	0%	0 0%
都立三鷹中等教育学校	0	0%	1	1%	1 1%
私立中学校	21	27%	36	45%	57 36%
国立中学校	1	1%	1	1%	2 1%
公立中学校	4	5%	3	4%	7 4%
いずれも参加せず	45	57%	19	24%	64 40%
未回答	0	0%	0	0%	0 0%
計	81		146		227

＜私立校との併願＞		（複数回答可）			
	区分A79人中		区分B80人中		計159人中
した	39	49%	56	70%	95 59%
しなかった	40	50%	24	30%	64 40%
未回答	0	0%	0	0%	0 0%

＜私立の併願校数＞		（複数回答可）			
	区分A39人中		区分B56人中		計95人中
1校	22	56%	19	34%	41 43%
2校	9	23%	18	32%	27 28%
3校	5	13%	10	18%	15 16%
4校	4	10%	4	7%	8 8%
5校以上	2	5%	5	9%	7 7%
未回答	0	0%	0	0%	0 0%

＜本校の志望順位＞		（複数回答可）			
	区分A39人中		区分B56人中		計95人中
第1希望	34	87%	50	89%	84 88%
第2希望	4	10%	3	5%	7 7%
第3希望	3	8%	3	5%	6 6%
第4希望	0	0%	0	0%	0 0%
未回答	0	0%	0	0%	0 0%

＜現時点でのお子様の進路希望＞		（複数回答可）			
	区分A79人中		区分B80人中		計159人中
国公立大学	63	80%	72	90%	135 85%
私立大学	42	53%	35	44%	77 48%
医歯薬系大学	17	22%	7	9%	24 15%
海外の大学	8	10%	12	15%	20 13%
短期大学	0	0%	0	0%	0 0%
専門学校	0	0%	0	0%	0 0%
その他	0	0%	4	5%	4 3%
計	130		130		260

新入生アンケート集計結果
平成31年度入学16回生 回収159、回収率99%

＜本校のどのイベントに参加したか＞						(複数回答可)					
	区分A79人中		区分B80人中		計159人中						
九段コズミック	7	9%	16	20%	23	14%					
天体観望会	4	5%	4	5%	8	5%					
小学生授業体験	32	41%	28	35%	60	38%					

＜都立中高一貫教育校を訪れたことがある＞						(複数回答可)					
	区分A79人中		区分B80人中		計159人中						
都立白鷺高等学校附属中学校	7	9%	39	49%	46	29%					
都立両国高等学校附属中学校	4	5%	18	23%	22	14%					
都立富士高等学校附属中学校	1	1%	3	4%	4	3%					
都立大泉高等学校附属中学校	0	0%	3	4%	3	2%					
都立武蔵高等学校附属中学校	1	1%	2	3%	3	2%					
都立小石川中等教育学校	4	5%	29	36%	33	21%					
都立桜修館中等教育学校	0	0%	4	5%	4	3%					
都立南多摩中等教育学校	0	0%	0	0%	0	0%					
都立立川国際中等教育学校	0	0%	0	0%	0	0%					
都立三鷹中等教育学校	0	0%	1	1%	1	1%					
いずれもなし	67	85%	29	36%	96	60%					

＜併願校＞		男子校		女子校	
共学					
青山学院中等部	2	足立学園中学校	1	浦和明の星女子中学校	1
郁文館中学校	9	開成中学校	1	桜蔭中学校	1
市川中学校	4	慶応義塾普通部	1	鷗友学園女子中学校	2
浦和実業学園	5	攻玉社中学校	2	大妻中学校	2
大西学園中学校	1	佼成学園中学校	1	大妻中野中学校	2
大宮開成中学校	3	芝浦工業大学中学校	1	惠泉学園	1
開智中学校	3	城北中学校	1	共立女子中学校	3
開智日本橋学園中学校	7	巣鴨中学校	1	光塩女子学院中等科	1
春日部共栄中学校	1	成城中学校	1	香蘭女学校中等部	2
慶應義塾湘南藤沢中等部	1	本郷中学校	1	国府台女子学院中学部	4
國學院大学久我山中学高等学校	2	武蔵中学校	1	十文字中学校	3
駒込中学校	8	立教新座中学校	1	品川女子学院中等部	1
埼玉栄中学校	4	早稲田中学校	1	淑徳与野中学校	3
栄東中学校	8	早稲田大学高等学院中等部	1	淑徳SC中等部	1
桜丘中学校	1			頌栄女子学院	1
芝浦工業大学柏中学高等学校	2			東京家政学院	5
渋谷教育学園渋谷中学校	4			聖徳大学附属女子中学校	1
渋谷教育学園幕張中学校	1			桐朋女子中学校	1
淑徳中学校	3			洗足学園中学校	1
淑徳巣鴨中学校	1			東洋英和女学院	1
昭和学院秀英中学校	2			豊島岡女子学園中学校	1
成城学園中学校	1			中村中学校	1
西武学園文理中学校	1			富士見中学校	1
聖望学園中学校	1			富士見丘中学校	1
成立学園中学高等学校	1			三輪田学園	1
青陵中学校	1			山脇学園中学校	2
専修大学松戸中学校	2			立教女学院	2
東京都市大学等々力中学校	3				
東邦大学付属東邦中学校	4				
東洋大学京北中学校	3				
獨協埼玉中学校	2				
日本大学第一中学校	1				
広尾学園中学校	5				
文教大学付属中学校	1				
明治大学付属中野八王子	1				
宝仙学園中学校	6				
茗溪学園中学校	1				
安田学園中学校	16				
早稲田実業学校中等部	1				
三田国際学園中学校	1				
その他(海外の学校を含む)	7				

平成31年度入学 16回生
保護者の皆様からのメッセージ
新入生からのメッセージ

保護者の皆様からのメッセージ

区分 A

私立高受験向けの塾に通い、基礎学力を身につけて、公立中高一貫校の対策は通信教育で自宅学習を中心にし、定期的に模試を受け、過去問を繰り返し解いていました。小学校の授業や活動も一生懸命取り組み生活の中で広い視野を持ち社会の様々な出来事に興味関心をもつことが大切だと思いました。

学校選択では我家はたまたま千代田区在住ということと、私立に負けない学習内容があるように思えたため希望しました。公立という面でやはり経済的に魅力的でした。(私立は受験しましたが試し受験のみです) 学習面ではほとんど塾におまかせ状態でした。4年生になってから公立一貫校のみしか考えていなかったのもそのコースのある塾に通わせました。4・5年生では通常授業のみで6年生になってから通常授業＋日曜授業を受けさせました。12月ごろから本人もあせってきた様で遅くまで塾で補習を受けていました。

学校説明会や様々なイベントに参加をし、子どもと相談して志望校を決め小6春から塾へ通いました。夏休み明けから過去問を解き、適性テストに慣れる勉強をしました。親はあまり口出しせず、うまく息抜きができるようコーチ役に徹しました。受検は本人のやる気が一番大切だと感じます。

小学校で学び楽しむこと。学校外での野外活動も含め日々を大切に過ごすことを中心にしてきました。早起き朝勉強の習慣が身に付いていたので塾へ行くことなく習い事も直前まで続けられました。

適性検査は4教科受験の私立とは全く違うし、九段は他の都立中高一貫の適性検査と違うので過去問を見ておいたほうが良い。

勉強に関しては塾に任せていました。自宅でも塾で出された宿題＋過去問題をしていました。勉強ばかりになりがちなので、子ども新聞で少し世間の情報を集めていたようです。

特段ありませんが、学力にあまり自信がないならば他の私立等とは試験のタイプが違うため、中高都立一貫校に専念されるのも良いかと思います。

区内枠であっても塾などによる対策はある程度必要ですが、都立、国立、私立などの受検

に必要な量と比べた場合犠牲にしなければならないことが少なく、受験とは無関係な習い事や趣味が継続しやすく済みます。

志望する学校は6年生はじめ頃までに決まっていると勉強（受験）対策が立てやすいと思います。うちの子供は通塾は冬期講習から1か月半くらいでしたが、通塾前から過去問にとりくんでいたことはとてもよかったと思いました。また、塾で志を同じにする人たちの場所に置いたこともよい経験でした。

がんばって下さい

日々のニュースや社会、文化、科学に興味を持ち、本質的な理解に結びつくような考え方、視点を意識して親子で九段入学を目標にすると良いと思います。特に受検対策としての勉強を意識するのではなく、初めて聞く課題に対して、正確に情報を読み取り、そこから言えることをまとめ、正しく文章で伝えるというプロセスを見届けることが近道です。そこに親が協力できた部分が多かったと感じています。

小6の一年間は塾を利用しましたが、学習習慣を付けるには良かったと思います。

最終的には本人がやる気にならないと厳しいので、なぜ受検するのか、という動機づけをしっかりとしておくことが大切だと思います。そこさえしっかりしておけば後は頑張っている本人を全力でサポートすれば良いだけなので。

常に好奇心をもつて自分で「知りたい」という気持ちを持てるように、応援することが大切ではないかと思います。子の興味・関心のある物事に、保護者も面白がって向かい合ってみると、お互いにより刺激になったように思います（例えば、親子で同じ本を読んだり、ニュースやテレビ番組を見て話をするなど）。近年、「読解力」が大事と言われていますが、読書によって「読解力」や「想像力」が養われると思います。小さい時から本に親しみ、自分で読みたいものを選べるようになってからは、マンガや物語だけではなく、新聞なども進んで読むようになり、時事問題や自分の身の回りの社会問題にも関心をもつようになりました。加えて、さまざまな本に触れて、文章を書く力、自分の考えを文章で表す力も付いたように思います。具体的な受験準備としては、まず、小学校での学習と生活がしっかり出来ていることが一番大事だと考えています。小学校6年間できちんとした学力と学習態度が身に付いていれば安心です。ただし、適性検査のような科目横断型の知識を問われる問題には、学校の学習のみで立ち向かうのは難しいと思い、6年生の4月から公立中高一貫校向けの学習塾に週1回のペースで受講しました。リハーサルを兼ねて模擬試験など複数回を受け、

実践力を高めました。

遊びたいのを我慢して勉強をしたり塾へ行ったりするのは子供にとって大変なこと。何のために勉強しているのか、本当に受検する気があるのか度々問いかけて自覚させ、自分の意志で動けるように声かけした。何をすれば良いのかまでわからなそうな時は具体的にテキストを1日1ページ、作文を1問など指示をした。具体的には最後まで子供のモチベーションが高かったのがよかったと思う。

自分は子どもへのサポートがもっとできたのではないかと反省していますが、子どもへのサポートはとても大切だと思います。本人のぶれない九段中等に入学したいという気持ちはすごく強かったです。

自宅ではゆっくり過ごしたかったようなので勉強はほとんど塾でしていました。(メリハリをつけたかったのかもしれませんが) 親からの声かけは強い口調にならないように意識していました。

学習塾には小学1年生から通い、馴らしていました。しかし、本人が本腰を入れたのは、周囲の友人が受験の話を始める5年生の終わりごろからでした。親は1年生から九段1本に絞っていたのですが、本人は友人達と同じ学校に進学したいと言っており俄然九段志望に目覚めたのは、4年生から興味を持ち始めた天文学のおかげです。何度応募しても落ちていた天体観望会もあって、屋上の天文台に上がって使ってみたいんだ、どうしても九段に入りたいと変化がありました。2月3日の当日を迎えるまで、学校も習い事も全く休まず通常通りの生活をつづけました。

入学した子達が皆良い子達で好感度が高かったです。本人が頑張って入れたと思うので親はサポートしたばかりです。

区分Aでの受検でした。塾は普通の塾に小2で入塾し、同塾の公立中高一貫校対策は小6の夏を過ぎてからでした。家ではニュースを見てそのニュースの事について話し合ったりなど日常の会話に取り入れていました。そして毎日コツコツ勉強していました。基礎ができていたのでスムーズに応用問題に進めたのが良かったのかなと思います。適性検査対策が重要だと思います。

塾は行かずに学習しました。ニュースを観てその事について話をしたり話題になっている事について作文を書いたりしていました。日常生活の1つ1つを大切に、基本的な生活をしっかりしていくようにしました。いろいろな経験をしてもらうためにキャンプ等に

参加させました。受検前でも学校を休ませたりすることなく「いつも通り」を心かけました。

学校の勉強をきちんとした上で、小学生新聞を読んだり、読書をしたり外出していろいろな経験を積むことが必要だと思います。そして、よく考えること、なぜ？という疑問を持ち仮説を立てて調べたり親子で話すことを習慣にしました。6年生から九段対策クラスのある大原予備校に通いましたが、平日は自由に過ごしたいという本人の希望で週末や冬期講習、分野別の短期講習のみを受講し、平日は本人の過ごしたいようにさせました。水泳を習っていたのも最後まで続けました。直前期までは勉強が足りていないように見えて不安でしたが、九段に入りたいという本人の意志が固く、直前期には自主的に過去問を解き週末も早起きして試験と同じ時間割で過去問を解くなど本当によく勉強していました。九段に入りたいと本人が強く思っていれば必ず道が開けると思います。

本人のやる気が重要だと思います。

中学受験がゴールになりがちなので、子供と一緒に将来について考えその為の進路の中に中学受験があることをお互い認識することが大切だと考えます。サピックスでは思考力を育てて頂きました。家庭ではなかなか子供に教えられる環境では無かったので塾の先生には大変お世話になりました。やはり塾なしで受かっている子は少ないようです。

小学校4年生から、本人の希望で私立受験のために塾に通い始めました。私立と併願で九段の受検を考えていましたので6年生の夏休みに3日間だけ公立中高一貫校用の講習に行った以外はひたすら4科の勉強をしていました。それでも家ではTVのニュースを観て家族で話題にしたり、小学生新聞を読ませて学校の宿題の日記の中で要約して書き、自分の意見を述べる練習はしていました。6年生の秋から九段の過去問をやり始めて、1月受験校の中の適性検査型入試で実践トレーニングをしました。4科型と適性検査型の両方の勉強は大変でしたが、6年後の大学入試にこのような経験は役に立つと思っています。

受検をするかしないかは本人の意思をしっかりと確認する。塾選びも重要、本人に合うかどうか（個別か集団か）。本人が集中できるように学校の友人があまり集結していない所の方が尚良い。過去問は全ての年度を2～3周解くと尚良い。記述問題を解くための対策をしっかりと行う。

文章を読む、理解することを中心に学習していくと良いと思います。

私立との勉強内容とは異なるので、慣れるのに多少時間が必要かと思っています。

九段中等が第一志望でしたが、私学も受験しました。2月1日から入試が始まり、2月3日の九段の本番に心身共に良い状態にもって行くのは想像以上に大変でしたが、「九段に入学したい！」という気持ちが強かったからこそ乗り切れたのかなと思います。受検前はいろいろ不安なことが起こってくるかもしれませんが、子どもは受検のその日も学力は伸びると感じました。力を発揮できますようご検討をお祈りしています。

学校の説明会には本人も行かせて、本人が行きたいと思う気持ちが大切だと思います。

生徒さんによる学校説明で「勉強は大変ですが、学校に来るのが楽しくて仕方がないです。」と伺ったことが最も印象的で、第一志望になりました。過去問は出題の意図が分かるまで解き直し、特に作文は限られた時間の中でテーマに沿った意見をまとめる訓練を繰り返しました。

塾での勉強の他、家庭では小学校の算数を何往復も復習しました。模試の結果はあまり気にせず、試験に慣れるためと割り切った方が良いと思います。模試よりも過去問を何度も解きなおして本番に向けて自信を付けました。

娘が九段に行きたいと言いはじめたのは3年生になったばかりの頃だったと思います。学校でお友達が塾に行き始め、志望校の話題が多くなって自分の進路を考えたようでした。自宅からも近く小学校の先輩方も多く、たまにお会いすると学校の様子を伺ったり「ちゃんと勉強してる？」「九段においで！」などと声をかけていただいたのも励みになったようです。塾にも通いましたが、学校や習い事もしっかりとがんばりました。合格をいただけたのは、本人の「絶対に九段に行く」という強い意志の力だったように思います。九段に行きたいと言いだした時から、一度も揺らぐことはありませんでした。親の私の方が他の学校は見に行かなくていいのか、私立を併願しなくていいのかと気を揉んでいましたが「いけない学校を受けても仕方ないでしょ」と一蹴されました。九段に行きたいという強い気持ちを持ち、その子を信じて応援してあげてください。

模試の結果や家庭での学習時間、学習内容など様々なことが心配になりましたが、親が口を出すのではなく、本人の自主性に任せていたことが良い結果につながったと思います。

受検終了から発表まで時間があります。とても心配な一週間ですが子どもを信じて良い結果を待って下さい。私立向けの勉強と公立対策を並行してがんばりました。本人の負担が大きかったと思います。本人の負担を考え、早めにどちらかにしぼった勉強に切替えた方がもっと集中できたのではと今思います。

4年生の時に文化祭に行き、本人が校風に強く魅了され、受検を決めました。5年生から週2回公立中高一貫校向けの塾に通いましたが、習い事は続けました。家庭では、学校の勉強もしっかりこなすこと小学生新聞を読むことも塾の宿題とともに心がけました。6年生からは日曜日の学校別特訓も受講し、B区分のお友達と切磋琢磨できたことが良い刺激になり楽しかったようです。知識の詰め込みだけでなく自ら考える力文章力等が身に付いたので合否に関係なく適性検査の対策を行ってよかったと思っています。

勉強に関することは、本人・学校・塾に全てまかせていましたので自宅ではのびのびとマイペースで過ごしていました。「勉強をがんばらなくてはい！」というのは本人が一番わかっていると思うので、親は暖かく見守るだけでいいのではないのでしょうか。

どんなことを勉強するのだろう。どんな生徒に期待しているのだろうかを問題から想像して勉強すると面白く出来る。

区内2校から中学を選択するのか、受検をするのか、全ての説明会に参加し教育内容や在校生さんの様子から九段に行きたいと本人が希望しました。内申のためもあり、基礎となる学校の勉強を中心に3年生から個別指導に通っていました。勉強の方は塾の先生にお任せし、家では生活サイクルが崩れないよう決まった時間の食事に宿題、普段通りの行動を心掛けました。受検直前は塾の先生が毎日来ていいよと声を掛けて下さり、毎日何時間も頑張っていました。「いつもと変わらない日常」のため、他の習い事も継続し、旅行で息抜きもしていました。

小学校で習う学習を基本として理解できている事が大切だと思いました。受検問題を解くためには訓練が必要だと思います。自分で判断する大切さ、むずかしさを貴校にて学んで欲しいと思います。

九段の受検問題は記述が多く、本質的な所を理解しているか、読解力はあるか、自分の言葉で自分の意見や経験を文章にすることが出来るか、を問われる問題になっていると思います。難関中学受験のための塾で、問題の解き方を繰り返し学ぶだけだと対策としては少し違うのかもしれない。自分自身や自分の子供もできていけませんので、自戒の念を込めて、普段の読書の質や量、家庭生活を含めた日常の過ごし方を充実させていかなければならないと感じております。

いろんな事に興味をもつことが大事だと聞いたので、子ども新聞を積極的に取り入れたり、子どもと世の中で起きている話をしたりしました。また少しでも会場に慣れるよう毎月中高一貫校のテストを受けに行きました。インフルエンザなどの伝染病をさけるため毎日

ヤクルトを飲ませて、うがい手洗い、なるべく飲みものをこまめにとるよう心がけてました。

私立型の勉強をしていたので、九段対策はほとんどしていませんでした。過去問は9月くらいから解きはじめさせましたが、本格的な対策は1月に入ってからでした。それでも試験には間に合うと思いますので、私立型の勉強をおすすめします。学校選択について、共学を志望しておりましたが、元男子校、元女子高とで校風も違いますので、偏差値にとらわれず、本人が希望する学校を受験するのがよいかと思います。

私立校の対策とは異なるため、受検対策は必要です。文章をまとめる練習、文字をキレイに書くこと、問題文を読み解くこといずれも基本をしっかりと取り組むことが大事だと思っております。過去問をしっかりと解いて慣れておくことをおすすめします。

6年生はあっという間でした。受検準備は早めに何事もすればよかったと思いました。はじめから何となく九段よさそうと思っていた。他の私立校も検討し、いい学校もたくさんあった。都内の共学校でちょうどいい学校は意外と少なく感じた。

日本語能力をきたえるため、新聞を読む。新聞は時々2紙購入して、一面トップ記事が違うとか、同じニュースでも取り上げ方が異なるとか比較する。九段は「東大〇人合格」という学校ではない。しかし、子どもたちが自ら考え、情報を探し、進路を決めている。誰かの作ったレールを走るのではなく、何もない原野に自分でレールを建設する力を身につけている様に思える。

小学3年生ぐらいから、私の尊敬する方々の卒業校の文化祭や公開授業に娘や夫、祖父母や友人家族と共にたくさん参加しました。説明会も大切ですが、やはりその子供の教育の成果はそれぞれの生徒達の在り様に現れてくると思ったからです。多くの素晴らしい先輩方や、関係者の方々と対話できる場を多くもつことで自然と娘自身もまた私共にも、あった場所が見えてきた様に思います。同様に塾についても私の信頼できる友人のお子さん達が通った大手～中堅を母子で体験。特に通いやすさ(できるだけ短時間かつ安全な場所)と食事、睡眠、運動面を親は配慮。生徒さん方の活き活き度で、ピカーだった現塾(進学だけでなく協働やリーダーシップ力も育む方針)と同じ観点で選択した九段を目指しつつ、この塾で学び方を教えて頂けた事は子供の人生においてとても有意義であり、もし九段とご縁がなくともあなたにとって必ず大きなギフトになるのであるから、という祖父母まで共通したスタンスで、小学生ならではのお友達や様々な初体験、継続して続ける習い事のバランスも大切に日々を重ねました。

早く九段中の過去問に目を通して我が子の弱点を把握することだと思います。うちの場合

合、算数が得意で作文が苦手だったので直前まで作文対策をしました。成績（報告書）が悪くても気にしないで欲しいです。A と B の差は4点ぐらい。得意科目でがんばればカバーできると思います。

区分 A で合格した親です。地元の麴町中学校に進学する準備をしていましたが、高校受験を考えなくてよく、歩いて通えるというメリットを考え、九段中等教育学校を受検しました。受検準備は受検の1カ月前から、約7年分の過去問を時間を計ってしっかり解きました。文章を書くのが好きなことは優位に働いたと思います。区分 A は2人に1人は合格できるのでチャレンジする価値があります。入学当初は区分 B の合格者と圧倒的な学力差があると思いますが、大学受験の時にはそれすら解消されてしまうという学習指導のノウハウも、今後の楽しみの1つです。九段中等教育学校は坂道の上にあるので、雨や雪の日の通学が心配ですし、治安的な面での不安も多少ありますが、ぜひチャレンジしてみて欲しいです。

保護者の皆様からのメッセージ

区分B

小学校で学ぶ内容を大切にすること。そして行事なども積極的に参加し様々な体験を積み重ねていくことです。学校選択に関しては、本人の意思を尊重することが大切だと思います。

説明会でいただいた先輩の勉強法の冊子が親子でとても参考になり、取り入れたい大事なところを子供と一緒に線を引き真似をして学習しました。学習塾にはいきしましたが、自分で計画を立てての繰り返し学習に取り組むことを一番大切にしました。塾のコースも優先順位を決め、半分に絞り込み、後は自習室でひたすら過去問とテキストを繰り返し勉強しました。夏期や冬期講習も受けず、テキストだけを購入してひたすら自習室で自習をしました。先輩のアドバイスを見習って朝早く起き計算を時間を計って取り組んでいました。都立中高一貫の合同説明会の際の生徒による説明と5月に学校の説明会で本人が理科室の充実さと、英語教育（海外を含め）、職業体験の内容に面白さを感じ、絶対九段に入るという思いが強まりました。文化祭のクラス劇はさらに娘の楽しい学校生活のイメージを強めたようです。大好きなサッカーも秋からは試合数を控え、自分で優先順位をつけて時間を上手に使っていたと思います。練習は気分転換に続けました。九段のみしか考えていなかった（受験しなかった）ので当日の緊張をやわらげるため、3週間前から毎週日曜日受検当日をイメージして同じ時間学校まで通いました。そのかいあってか当日落ち着いて学校に向かえたと思います。

何度も学校に足を運び、やはりこの学校がよい、と本人が決めました。塾には2年間通いましたが、その間も小学校の行事には積極的に参加し、習い事も通い続け、友達とも遊び、充実した小学校生活を送ることが出来ていました。勉強以外の時間をもつことで勉強にも集中できたのではないかと思います。

何回も学校へ足を運び、進学したい想いを募らせてきました。塾は週末のみで基本的には学校中心でもスケジュールをたて計画的に勉強をする習慣を身につけるようにしていきました。進学したい気持ちを強くもって頑張ってください！

かなり早い段階で第一志望校としたので、通知表の点数は常に意識させていました。本人はクラスでも目立たないほうなので学級委員に立候補させたり担任の先生との面談でも九段を志望していることを早目に伝えるといった戦略をとりました。親としてできることはこれくらいでした。塾選びについては学校との両立がしやすく、また本人の強みを伸ばして

くれる個人塾を選択し、勉強面は塾の先生にお任せしていました。

受検準備を始めたのは 6 年生になってからであり、他のお子さんと比べたらかなり遅いかもしれません。しかし、公立中高一貫教育校対策の勉強を集中して進めてきたこと、そして何より受検者本人の強い意志が合格につながったのだと思います。

塾は都立中高一貫校向けのコースに 5 年生の夏休みから通いましたが、習い事優先で塾を何度もお休みし、個別指導で補いながら学習を進めました。習い事は 6 年生の夏休み前まで続けました。九段対策は塾のカリキュラムにお任せしていましたが、滑り止めの私立対策として私立向け算数（特殊算など）も必要だと急遽 6 年生の秋から問題集を数冊選び必死に解き続けました。問題集は 1 回解いて終わりではなく少し時期を空けて 2 回目、どちらか間違ったところだけを 3 回目に解き直す方法で完全克服を目指しました。何事も「やりきる！」ことが自信になると思います。子どもは一度も弱音を吐かず根気強く努力し続けました。それくらい九段に憧れ絶対に合格するんだ！という揺るぎない信念が子どもの精神力を後押ししてくれたと感じています。「学ぶことは楽しい」本来の目的を忘れずに親子で力を合わせて受検勉強期間を乗り越えて欲しいです。

姉の通う都立中とぎりぎりまで悩みましたが、本人の強い希望で九段の受検を決めました。説明会や九段祭での在校生の熱心な説明やパフォーマンスに親子共に魅了されていたので高い倍率ではありますが「九段に行きたい」という結論になりました。塾へは 6 年生の夏からですが、それまでの基礎学力は身に付くように自宅学習をしっかりとしていました。小学校の管楽器クラブの朝練も習い事のピアノも直前まで休むことなく続け、何事も最後まで頑張ることができたのが結果につながったように思います。

本人の強い希望があり受検することを決めました。スポーツを本格的にやっているのですが、両立しながら挑戦したいという本人の意思を優先して勉強は自分のペースで進ませてほしいと塾の先生にお願いしました。毎日のスケジュール、模試やスポーツの大会への参加の優先順位を本人が決めていたので自然に自覚と覚悟が身についたと思います。自分のために行きたい学校に受検するんだという気持ちが大切だと思います。

4 年生で初めて九段中等教育学校を知り、説明会、授業体験、九段コズミックとたくさんの行事に参加させていただきました。学校に足を運ぶたびに、この学校で学びたいという気持ちが強くなりました。絶対に合格する！！という強い気持ちで試験の前日まで過ごし、2 月 3 日の試験当日はいつも通りを心がけリラックスして試験にのぞむことができたようです。

娘は4年生の頃から私立中学進学を目指して塾に通っていましたが、適性検査の問題に取り組みはじめたのは6年生の夏からです。私立受験の準備と適性検査の準備のために読解力を鍛えるようたくさんの過去問に取り組みました。

学習塾には5年生の夏期講習から通いましたが、自宅での学習は程よく息抜きをしながら自分のペースでやっていました。習い事も本人の希望でやめる事なく試験前日も学校へ行った後習い事へ行っていました。生活のリズムを崩さず勉強する時は集中してできていたのが良かったのかな？ と今は思います。

九段は書く量が多いので私立併願であれば武蔵、麻布、桜蔭、渋谷などを目指すような対策をしておくと思います。(直前でも対応可能になります) 自尊心を養う、国際的な雰囲気共感して決めました(本人の意思です) 意味の通る日本語をすらすらと書けるようになれば大丈夫だと思います。

受検の直前にインフルエンザに患い、心身共に落ち込みましたが回復後は当日のタイムスケジュールに合わせ体内時間の調整を行いベストコンディションで当日を迎えることができました。何が起ころうとも最後まで諦めないこと、また九段生に絶対になりたいという強い気持ちが大切だと思います。

家庭の教育方針と合っていると感じ、4年生の秋に九段を第一志望校に決めましたが、基礎学力をつけるために私学受験向けの大手塾に4年生の2月から通っていました。私立中学受験用に4科目をしっかり勉強したことは九段合格に必要なだったと思います。私立入試の問題も記述が多い傾向になっています。大切なことは「問題をていねいに読み解き、問いにしっかり答える」事だと思います。九段の過去問を通じて自分の意見とその「理由」や「体験」をわかりやすい文章で書く練習をしました。具体的には①一文を短く ②主語と述語を対応させ ③自分の言葉で具体的に 書けるように何度も書き直して練習しました。また、どんな問題にも対応できるように朝日小学生新聞の記事を利用して、60字で意見と150字で体験を書く練習をしました。(あまり時間がとれなかったので直前に20テーマ程)

読書が好きで受検勉強をしながら合間に常に小説を読んでいました。息抜きにもなり長文読解力を養うことにもつながったと思います。過去問で解けなかった問題には繰り返し取り組みました。第一志望校を貫いた学習姿勢が実を結びました。

娘が受検する学校を決める際は合同説明で幾つかの学校の話聞いた中でビビっときた学校である九段中を迷わずに選んだのですが、塾で色々な学校の過去問や合格判定模試を受けてどの学校のタイプが合っているのかも知ることができたので学校選びの参考になり

ました。

色々な学校の説明会や学校見学に行って、子供本人が自分が「ここに通うんだ！絶対通いたい！」という気持ちの持てる学校を選ぶことが、勉強へのモチベーションにもつながるかと思います。娘は、初めて九段を訪れた時、生徒の方の説明を聞いて「あんな風に堂々と人の前で発表できる人間になりたい」と言って九段への受験を決めました。本人のやる気が一番合格につながるかと思います。

入試問題に特徴のある（記述中心）学校とお聞きしておりますので、絞り込む事、早めからの準備をお勧めします。

子供本人が最終的に志望校を決めるにあたり、小学生として必要な知識、勉強をする機会を幅広く与えてきました。そうすることで学力が達していないからあきらめるということもなく、学力以外で中学高校そして大人になって自分がやりたいことのために近づくことのできる希望の学校選びをさせることができたと思います。

小学生生活を大切にすることを心がけました。私立中受検で必要とされる学力とはちがうので塾中心ではなく学校生活や習い事をしながら受検準備をマイペースで取り組めたとと思います。

父の看病と伯母の介護があったので、娘の勉強は塾にお任せしました。親は健康管理や送迎などサポートしいつもと変わらない生活を心掛けました。親が緊張しないことも、娘には良かったと思います。文化祭がとても楽しく、在校生も活動的だったので志望しました。

まずは、小学校中学年（４年生）からの勉強をしっかりとやる。学校での生活も良い子を目指し広い視野で物事を捉える事が出来る、大人のような考えが出来る様になると良い。新聞や本を読むのもオススメ

４年生の終わりから通っていた塾の学習に行き詰まりを感じ思い切って６年生の１０月に個別指導の塾に転塾した事が良い方向へ導いたと思います。本人のペースでじっくり進められたので問題の理解を深められたと思います。受検の１カ月前からは時間を計りながら過去問題をくり返し解き、問題の傾向等を頭に叩き込みました。またインフルエンザが大流行していましたので、体調管理には気を配りました。

小学校生活（授業、宿題、委員会活動、友人関係、行事など）を第一に考えていました。塾や受検といった事はその次というスタンスでした。受検準備は通っていた塾から言われ

たことアドバイスされたことはしっかり守り期限内に終わらせるよう、子供に声かけしていました。ざっくりとですがスケジュールをおさえていた感じです。学校見学や文化祭などの行事を数多く見て、子供に合った学校、長所を伸ばしてくれそうな学校という視点で学校選びをしました。九段は娘の希望、親の希望が一致した学校でした。この学校に通いたい！という強い気持ちが娘が自主的に受検勉強に取り組む原動力になったと思っています。

九段中学が第一志望でしたが、倍率が高いため、また、検査という性質上、合格可能性を読むことができなかったため、私立中学の対策をメインに勉強していました。結果的には、その勉強があったから九段中にも合格できたのではないかと思います。（それ以上に検査形式のテストとの相性の良さが一番の要因だったかもしれませんが）試験の直前2週間は過去問をまとめて解き、市販の公立中高一貫対策の作文用問題集も解いて、実際の入試でテンポよく進められるようにリズムを作りました。

公立中高一貫校を希望し5年生よりいくつかの学校を回りました。学校の特色とこどもの適性に合う学校をと九段を希望しました。九段コズミックや文化祭、学校説明会で周りの環境や設備の充実またキャリア教育に力をいれている点、学力だけでなく個性を伸ばせる学校だと思い親から勧めました。本人も学校説明会で在校生や先生と会話し質問することでここで学びたいと思ったようで、それからは学校別の特訓や過去問など徹底的に勉強し入学させていただくことができました。

4年生から都立中高一貫校対策をしている塾に通い始めました。6年生の秋頃まで他の中高一貫校を希望していましたが九段中を初めて見た時からこの学校に行かせたいと思い、子供も九段中を一目見て気に入りました。九段中の過去問は全部行い、塾での都立中合格判定模試などはすべて受けました。2月1日に私立中も併願で受け、受検当日の雰囲気も少しわかったようで、2月3日の受験本番は緊張せず出来たようです。塾の先生との相性が良かったこと、過去問を何回もやったこと、そのことが合格へとつながったのかもしれませんが、本当に合格できて良かったです。

受検準備 3年10月～5年1月サピックス 5年2月～6年1月個別指導（都立一貫校卒業の大学院生）を週3 5年2月～子ども新聞購読 ※家庭で親による指導は難しかったので塾にお任せしました。 学校選択 経済的に私立一貫校が難しかったので、子どもにも話し、都立区立一貫校を見学した中から子どもが選びました。（子ども本人が志望校を決めるように塾からアドバイスされたため） 小学校の活動、習い事、校外イベントなどにも参加できる様に通塾時間の短く本人の負担が重くなりすぎないことを重視して塾を選びました。

我が家は6年4月の「公立中高一貫校を知る会」で初めて九段中を知りました。5年の2月まで私立中を受験すべく、私立向けの塾へ通っていましたが、覚える内容も多く、一つ一つを丁寧に扱う娘にはスピードが追いつかないようでクラスは下がる一方。このままでは娘の自信喪失につながると考え、塾には残留を期待されましたがスッパリと辞め、それから夏休みまでの半年、塾で5年時に扱ったテキストを全てやり直しました。親は再度問題を解けるようコピーで課題を用意し、丸付け、復習までは自分で行き、余程難しいと思った時だけ親に「ヘルプお願いします」と解説してもらうように「自分で行う」ことを主にさせました。するとどんどん自信が戻ってきて、9月から公立校向けの塾へ入塾するまでには「この中で一番をとる！！」と思えるようになりました。志望校を決めてからは学校のイベント（九段コズミック、文化祭）に可能な限り参加し、行く度に素敵な在校生のいる九段中に惹かれて受検の1週間前の不安な時期にも「私は九段中に入らなくてはいけない」と思っていたようで、この度のご縁は自らで勝ち取った証なのかなと思います。これからも「自分で身につける」スタンスを大切に、素敵な学生、女性に育ってほしいと思います。

4年生のころ、学校説明会で九段中学校の魅力に触れ、受検を決意しました。好きな習い事があり塾との両立に苦労しましたが、どちらもやめずに最後まで続けました。スケジュール調整は大変でしたが、習い事が良い気分転換にもなっていたようで、続けてきてよかったと思いました。直前期は何よりも過去問演習に集中していました。常にタイマーを使用し、時間配分に気をつけながら、繰り返し解くことで徐々に要領をつかんできたようでした。親子でぶつかり合ったりくじけそうになったりした時もありましたが、子ども自身が気持ちを持ち直してまた前に進んでいました。受検を通して精神的に大きく成長したと感じます。お子さんの力を信じてサポートしてあげてください。

他校の説明会、文化祭も足を運び、本人が九段中への進学を希望したので、進路を確定しました。天体観望会、学校公開も参加し、「行きたい気持ち」を盛り上げるのも勉強を続ける原動力になったと思います。それ以外では娘の場合、塾の先生、一緒に勉強する仲間にも恵まれていたのではないかと考えています。最後は本人の「がんばり続ける力」が合格につながりました。朝勉強と称して6年生の12月からは6：00～7：00の間何をやるか Todo リストを作り自分のプランニングした勉強を終わらせる、別の時間は「これで終わり」の後にプラス1問だけ問題を解く、等 クリアーできる範囲の努力をコツコツ続けたのもよかったと思います。

我が家では水泳部の活動をしている学校で将来的な選択肢を持てる教育指導をしている学校を探していました。幾つかの学校説明会に参加した中で区立九段中等のキャリア教育に魅力を感じ、本人もとても気に入った様子だったので志望校に決めました。受検準備は公立中高一貫コースの塾に小5から入り、塾のテキストを中心に勉強を進めました。私立の受

験も視野に入れ、負担にならない程度の参考書、ドリル等も取り組んで外部模試での立ち位置確認もしていました。小6の夏からは九段の対策ゼミにも参加し、本格的な受験体制に入っていました。最後まで水泳のクラブと両立したことで時間的な制約がありましたが、九段で大好きな水泳を続けるというモチベーションが本人の支えとなり良い結果に繋がったと考えています。

興味をもった事はなるべく体験させ、その事について語り合う。いろいろな分野の本を読む。

決められた勉強をしてマニュアル通りの回答をするのではなく、自分の個性のある考え方や意見を伝える力が大事なように感じました。

公立中高一貫校を知る会に参加し、多くの学校のそれぞれの特徴を知り、その後、本人の希望（詳細を知りたいと思った）でいくつかの学校説明会に行き、九段中等教育学校に決めました。塾内のテストや模試では思ったような結果は出ず、落ち込むこともありましたが「合格」の目標に向かって努力していました。私にできることは試験当日までの体調管理くらいでしたが、無事試験を受けることができ、合格でき良かったです。

6年生の夏休み明けに突然の受験宣言でした。本人の強い決意だったので勉強のリズムは本人にまかせました。思いつめずに適度に息抜きして、オンとオフの切り替えもしっかりしていました。とても塾が楽しかったようで、本人に会った塾を見つけたのも良かったようです。子供を信じて支える。

基本は小学校生活として、生活のリズムを保たせるように気をつけていました。学習塾の先生のコメントは参考にしましたが、学校の先生の優しいコメントのほうを本人に繰り返し伝えていたように思います。

着実に回答できるようになるための訓練、繰り返しやり切る事、塾の自習室の有効活用が重要だと思います。

5年時に基礎を固めたのが最後に役立ちました。

九段祭や学校公開や体験授業等、こどもと何度も足を運びこども自身が九段に通いたい中高6年間でここで過ごすと思えたことが良かったと思います。ニュースに目を通したり、受験勉強で得たことを家族（母親や弟）に自分の言葉でわかりやすく説明することを日々やっていました。

5年生の秋頃、九段中への進学を決めました。他の学校も見学しましたが九段への思いは変わらなかったです。4年5年はあまり無理させないで遊びたい時は遊ばせながら勉強と向き合っていました。6年になると塾の日も増えるので本人も少しずつ受験に向けて気持ちが入っていきました。親ができることなんて些細なことだなあとよく思っていました。おいしいご飯を作って少しでも笑って楽しく勉強してほしいそればかり考えてやってきたように感じます。

5年秋まで受験を全く考えていませんでした。息子が「そろそろ俺も塾へ行くかな」と言い出したので塾の体験を受け12月から入塾しました。その際に通っていた公文教室の先生から「行きたい学校が決まっていない受験勉強は無意味、記念受験ならばやめたほうが良い」とアドバイスを頂き、いくつかの学校を見学し息子が九段を選び目標を定めました。5年のはじめから少年野球チームに入りピッチャーとなったところだったので受験のためにチームを抜ける事は許されないと野球第一に受験勉強は野球のない日にする事として、平日は塾、土日祝は野球に専念しました。日曜の塾の特訓や模試を受けられず心配したこともありましたが、二足の草鞋と決めて野球も勉強も出来る限りの努力をする生活を続けたことが息子の中でバランスを保ち、受験当日を迎えられたと感じています。

過去問（10年分）を模擬試験のような環境でやらせ、間違えたところをより良い、他人が読んでもわかりやすい説明として書けるように何度も解き直させました。1月にこの作業を集中してやったことがよかったと思います。

小学生らしい生活の中で、基本を大切に勉強。得意科目を伸ばしその教科だけは誰にも負けないようにしてどのテストにもゆるがないようにする。

私立用の受験勉強が向いていなかったようで、6年になってから都立中高一貫校の受検を検討しました。もっと早くから検討していれば良かったと思います。

過去問を親子で一緒に考えながら解いていくことで子供の考える力や求められる解答を作成する方法が身についたと思う。

5年生の秋、学校説明会に参加し、親も子も絶対九段と意見が一致しました。選手ユースで水泳を続けていた息子は海での遠泳の行事に一番惹かれていたようでした。そこからは九段一本で親子2人3脚で九段対策に取り組んでまいりました。2年間都立対策の塾に通い6年生の秋頃から過去問に取り組み始めました。11年分を2～3回解き、冬休み明けには過去問は完璧にしました。塾では都内他校のみならず他県の過去問もたくさん解いていた

ようです。1月に入ってから疲れが残らないようゆったり過ごす日が多かったです。学校も休まず水泳も最後まで続けましたが、それが気分転換になっていたようです。私立は受験せず一発勝負でしたが、絶対九段という本人の強い気持ちが合格という結果をいただけたのだと思っています。

幅広い視野、知識を身に付けるために小学生新聞、日経新聞を毎日読んでいた。塾の学習では私立の勉強も取り入れ、特に算数、理科が少し苦手だったのでしっかり基礎からやった。立地、カリキュラム、行事等どここの学校よりも一番魅力的だった。

通塾していませんでした。学校の提出物や課題をきちんとやることを守っていました。本人の意思で受験校を決めています。自宅学習は本人の意志の強さだと思いました。小学校6年間、大好きな野球も12月まで休むことなく参加し、ピアノの習い事も受験期間も通っていました。文化祭を見学に来たときに本人は決めていたそうです。強い思いがあるほうが受験を乗り越えられると思います。

学校選択は本人の強い希望からです。説明会へ参加して設備や雰囲気からすぐに決まりました。受験を意識してから始めたことは、とにかく本を読ませました。ライトノベルやマンガでわかる参考書など、いつでも読めるように用意しました。試験直前は早起きの習慣をつけさせようと声かけをしました。あとは本人の強い意志と良い仲間にも恵まれ努力した結果だと思っています。

スポーツの習い事を1年生からやっており、受験のために辞める事もせず、息抜きにもなったかと思っています。家庭学習は塾を辞めて通信教育に変えましたが、問題を見たときにちょっと読みにくい漢字などがあったりしていい問題だなんて感じました。学校選択はやはり経済的な問題もあったりするので、私立は考えていなかった分自分が通える範囲での中高一貫校で探しました、途中習っていたスポーツが夢中になり勉強がないがしろになった時期もありましたが。本番終了後「もっとちゃんとやっておけばよかった」って後悔していました。受かっても落ちても後悔しないように頑張っていました。

学校選択については学校の情報から自分の子供に合いそうで通学しやすい学校の学校説明会に何校か参加し、最終的に本人が決めました。受験準備は通信学習を小1からしており、小5からは受験向けのコースを受けました。基本的な勉強はしていましたが、本格的に勉強を開始したのは、本人が「九段に行きたい」と感じた小6の夏からです。今のままでは学習量が足りないと感じ、小6の秋から学習塾の九段向けの集中教室に隔週1回通うようになりました。自宅では苦手項目の作文の対策をしました。平日は今までと変わらず、友達と思いきり遊ぶことで逆に勉強の時間に集中できたようです。12月からは九段の過去問を

繰り返し解きました。特に最近5年分は完璧に解けるようになるまで何度も解きました。学習を本格的に開始するのが遅かったですが、塾で初見の問題を解く事とテストに慣れるようにし、家庭では過去問で九段の問題に慣れ、塾と家庭の両方でわからない問題を残さないという苦手対策をする事で、受検本番を自信をもって迎える事ができたようです。

親がまずこちらで子供を学ばせたいと思い、4年生の時に九段祭と一緒に訪れたところ、子供も即答で「九段に入りたい！」となり、そこから九段を目指しました。ただ幼少からのスポーツの習い事や遊びも含めバランスの取れた小学生生活を送らせたかったのも、通信教育のレベルを上げて塾通いは6年生の9月まで週1に抑えました。幸い1年生からの通信教育で家庭学習の習慣は付いていて、ルーティンとしての朝の計算、夜の漢字、そして苦手な新聞の要約や読解問題なども四苦八苦しながらもがんばって続けました。しかしいよいよ受検が近づくと心が揺れ「勉強したくない」と爆発することもありました。そうなった時、子供の本心を見抜くのは難しいと思いますが、一番は親がぶれないことだと思います。塾まかせではなく、親として受検日までいつ何をやるべきかしっかり頭に入れておくべきかと思います。本番は一度しかありませんので、その時に12歳の子供が力を出し切れるかどうか。九段を訪問できる機会にはすべて訪問させ、模試は自塾以外の模試をできるだけたくさん受けさせることをお勧めします。

小3の時に競泳の試合で九段を知りました。小5の時に学校説明会に参加し、本人の九段に行きたいという気持ちが強くなりました。3才の頃より公文をやっており、小6より中高一貫の塾に週1回通いました。小6の8月までは競泳の全国大会に出たいという本人の希望もあり、スイミングを続けました。模試では、いつも悪かったのですが、なぜまちがえたのか親子で見直し次に同じミスがないようにしてきました。小学校のことも絶対に手を抜かずにおろそかにしないように過ごしました。出かけた時には学校で数字で遊ぶようにしていたり、毎朝、新聞を読んで家族で話したりしていました。最終的には本人の九段で学びたいという、とても強い思いで合格を信じて受検にのぞんだことがよかったように思います。

3年生の終わり、私立向けの塾に入りました。それまでの準備不足かなかなか思うようにいかず、親子で悩んだ時期もありました。5年生になる頃に、志望校を九段と決め転塾。以降まっすぐにすすんでまいりました。入学してからの部活動や学校生活を想像し、何度も何度も過去問を解いていた様子です。幼い妹がいるので勉強は最後の最後まで塾の自習室でした。5年の夏から始めた新聞スクラップは文章力向上と社会への着眼などとても役に立ったと思います。習い事はやめず、学校も休むことも選びませんでした。本人の強い強い意志が合格へつながったと感じています。

息子は習い事を2つ力を入れていたため、早くから塾に通うことはできませんでした。その分、4・5年生ではインターネットを用いて私立向けの映像での学習をし、6年生から個別塾で公立中高一貫校向けの学習をしました。6年の秋までは大会などがあり、なかなか集中できない状況でしたが、毎日朝の計算、漢字、前日の復習は欠かさずやり続けたことが自信につながりました。模試でもいい結果はでていなかったのですが、最後まであきらめずに頑張りました。「テスト1週間でも成績は伸びる！」という言葉信じて過去問や模試の解き直しをくりかえし行えたことがよかったと思います。

4年生から私立向けの勉強をしており、本人の第一志望も私立校でしたが、親はどうしても九段をあきらめられず併願させました。対策としては①公立模試を2～3回②塾の公立向け特別講座3日間③直前の過去問演習（自習）だけでした。全体的な傾向として私立校でも思考力を問う問題が増えていることもあり、結果的には不合格となった受験も含め多くの私立校の受験対策や複数回の実際の受検そのものが力を与えてくれたように思います。

約1年間、私立中学校受検のための勉強しかしてきませんでした。知識を詰め込む型の学習と共に設問で問われていることや与えられた情報から導き出せることをよく考える習慣が学習の中で培われたものと思います。国語の文意を正確に把握する読解力が基本だと思います。その上で前提条件と背景情報から可能性ある事象を導き出したり選択する論理的思考と想像力を培うことが必要なのだと思います。

千葉、東京の私立受験を経て、最後に九段に臨みました。子どもが受験勉強に勤しむ傍ら、ひとつひとつの結果がどうであれ、子どもが常に前向きな気持ちで次の一步を踏み出せるよう、夫婦で心の準備をしていました。試験が終わった時、合格発表の時、嫌でも不安が高まりますし、残念な結果なら尚更です。そんな時、子どもにかける言葉や接し方をあらかじめ夫婦で決めていたことで、親子そろってすぐに気持ちを切り替えられ、最後のよい結果につなげることができました。学習面の対策は子どもが主役ですが、心の対策は親が主役なのかもしれません。これから受検に臨まれるご家庭の皆様が、親子そろって笑顔で入学式をお迎えになることをお祈り申し上げます。

きっかけは、5年生の夏休み前、たまたま九段のHPで学校公開のことを知り、平日の放課後に子どもをうまいこと言いくるめて連れていったことでした。学校を見るまでは、しょうがない、親の道楽につきあってやるか的な感じだった子どもでしたが、見に来ていた人が少なかったこともあってか、生徒さんにあたたかく迎えていただき、廊下で会った先生に”あと一年あるんだね。まってるよ”とおっしゃっていただき、帰り道ではすっかり”九段に行きたい”と心を決めていたようでした。適性検査当日もその時子どもに声をかけてくださった先生を見かけたそうで、廊下で面白い踊りをしていたから緊張がほぐれたと言って

いました。受検準備に関しては他のご家庭と特段ちがったことをした訳ではないと思いますが、横で見ていて感じたのは、適性検査対策以外の「すぐには点数につながらない」勉強が直前になって子どもの得点力にとっても役に立ったということでした。また受験を快く思わない先生(担任ではないですが)が学校にいてどこを受けるかしつこく聞き出そうとするクラスメートにストレスを感じていたこともあり、調査書をいただいたあとはずっと学校を休んで、本人が受検のためにやっておきたいことを悔いなくできる時間は作りました。しかし、子ども本人と同じもしくはそれ以上に強く九段を希望していたり、模試の成績がよかったお友だちが残念な思いをしたりもしているので、親としてもご縁をいただけたのは、やはり何のことだかさっぱり分からないというのが本音です。

小1からサッカーを習っていて、2つ先輩が本校へ入学(合格)する事を聞いて本人も通いたいと言いました。自分で塾も決め(先輩と同じ塾)頑張っていました。目標を自分で決めることが長い受験勉強のモチベーションの持続につながったと思います。家庭ではリラックスタイムにし、勉強は塾のみでした、授業のない日も自習室を利用しました。お友達と1時間遊んだら塾へ行くなど時間の使い方が上手になりました。わからないことはすぐに調べる！を日常生活から行っていてどんな事でもすぐインターネットで検索できる環境にしました。学校選択は本人の希望で決めました。何度も説明会や文化祭と足をはこびました。本人が通いたい学校のみ受検したので公立一貫型と私立型の勉強も大変だったと思いますが、心が折れることなく頑張れました。親はあまり怒ったり注意せずを心がけて自立にまかせました。九段教育方針が本人に一番あっているように思います。

新入生からのメッセージ

過去問や、塾の教材を繰り返し解くことです。また、塾で教わった記述の書き方や、対比するなどの「型」を覚えたり、九段中の傾向についてしっかり把握することです。他にも、計算をするスピードを速くするために計算練習、ミスを防ぐために漢字練習をしたり、適性1の作文のために、体験ストックを作り、それに合う意見を考えることも大切だと思いました。

「解く」という視点ではなく、どのような問題がどのように出題されているのかという視点で問題を見たことです。また、ただ文章を読むのではなく、とにかく情報整理のために手を動かすことに注意しました。とにかくテストや集中する時間をつくり、テストになれておくことや集中力をつけることが大切になっていたと思います。文章が正しくつながっているか、意味のある文になっているか（記述などで）よく確認しました。

私は、漢字や計算の基礎問題を毎日解いていたことが良かったと思います。基礎がわかれば多少難しくても応用することができます。ケアレスミスを絶対にしないように模試の時から気を付けました。小学生新聞に毎日目を通すようにしたり、文章の要約や自分の意見をまとめる練習を五年生の時から取り組みました。塾の自習室は集中できるので、授業のない日もほぼ毎日通いました。

塾だけではなく、通信教育や問題集で計算力を身に付けました。また、九段にたくさん足を運ぶことで入学意欲を高められたのも良かったと思います。夜は早く寝ることが大切です。

学校の授業をきちんと受ける。様々な問題を解く。

理科の単語を単語帳に書いて覚えること。

九段の過去問をくりかえし解く。模試を受けて試験に慣れておく。適性型の試験をやっている私立の学校を受けて、本番のふんいきに慣れる。

九段中学校の過去問を何度も解くだけではなく、解いてわからなかった問題や適性1の作文などを塾の先生に自分が理解するまで聞くことです。そのように勉強することで、より九段中等の適性問題の傾向をつかむことができたと思います。また、平成24年から30年の7年間の過去問を何度も解いていくごとに点数がだんだんあがっていったこともこの方

法で勉強したためだと思います。

私は4年生から通っていた塾でいまいち成績が伸びなかったため思い切って6年生の10月ごろに塾を変えてみました。その塾では文系・理系それぞれ進みは違いましたが、どちらも基本のドリルの後に過去問に取り組むという形で進めていきました。それから苦手なところや大切なところをふせんに書いてファイルにコレクションもしていました。また苦手なことや分からないことをしっかり聞いて復習もしました。この3つのことは、特にやっていたよかったと感じました。

全国の都立の過去問がのっている問題集（銀本）や九段中の10年分の過去問集をやってよかった。また、九段中の10年分の過去問集は適性検査1，2，3を本番解く順番で、時間を計って行くと良い。

昨年の九段生の勉強内容や方法を参考にして、計算や時事問題への対策を強化しました。九段はスピード勝負なので計算も時間を計りながらやりました。適性検査1の作文は、200字程度で内容をまとめるのが難しく感じたので、様々な分野の問題についての作文をかき、塾の先生方などに何度も添削をしてもらいました。そして、添削してもらった作文は書き直し、自分のものになるようにしました。

九段中の適性検査の傾向に合わせて、たくさん問題を短時間で解くようにしました。過去問を45分よりも次回時間で解いていたため、すばやく問題を解けるようになりました。また、塾で解いた問題の中に分からないものがあったら、分かるまで塾の先生に聞くようにしました。そして、すぐに理解できなかった問題には印をつけておいて、後日、もう一度解くようにしていました。

学校生活も塾も習い事も友達との関わりも楽しんで行ってきたことが受検に役立ったと思います。勉強は、塾で出された課題のみをやりました。

過去問を10年間分取り組んだことです。1年間分解き終えた後は、母に採点をしてもらいました。間違っていた問題は、まず自分でやり直し、それでも分からない場合は、解説を読んだり、母と一緒に直したりしていました。

九段中の過去問

息抜きのため、小さいころから習っているダンスを続けました。また、分からないことはしっかりと復習し、苦手をなくしました。

一度習ったことを復習ノートにまとめて復習したこと。

過去問をたくさん解きました。適性検査が2までしかないものは、1回解き、適性検査が3まである年度は3回解きました。私は解くのがおそいので、解くスピードに注意しました。試験時間÷大問の数を計算して、だいたいの目安をつけ、その時間を強く意識して勉強をしました。タイマーをかけて休む時間と勉強する時間を分け、自己管理をしました。自分の欠点や注意しなければいけないことを書き出した紙を見て、問題にとりかかるようにしました。

5年生のときから「朝日小学生新聞」を読んでいた。小さい頃から読書が好きで、勉強の合間に小説を読んでいた。勉強の息抜きにもなり長文読解力をつけることにもつながったと思う。

私は記述問題が苦手だったため、たくさんの年度の過去問を解いたり、時間内にすべての答えをうめたりすることを意識していました。他には暗算ではわからない計算問題を、速く正確に解く練習もしていてよかったと思いました。九段中等が第一志望でしたが、私は私立中学校受検していたため、公立中学校の勉強をずっとやっていたわけではありませんでした。なので不安もあったけれど、私立中学校の対策（文法など）も、九段中等の合格につながったと思います。

過去問をたくさん解きました。10年分の過去問を2周、5年前までの年度は3周しました。また「銀本」という公立中高一貫校の過去問の全国版を解いて、たくさんの種類の問題に触れたことがよかったと思います。4年生のときに私国立中受検の勉強をしたり、5年生のときに個別で指導してもらったことも、6年生での中高一貫の対策に役立ったと思います。塾の先生が話していた何げないことが当日（2月3日）の検査で出題されたので、先生の話はよく聞いてメモをとることもおすすめします。

小学校での学習や行事を大切にし、たくさんの経験を積んだ。また、過去問を何回もくり返し解いた。

九段の過去問を6年間分解き、H27年からの4年間は、2周目、3周目とたくさん解きました。また、一度解いたテキストの問題をもう一度解いたり、計算ミスをなくすために、計算問題をたくさん解きました。このように問題をたくさん解くことで本番でも45分以内に解き終わることができました。受検前は息ぬきや生活リズムがくずれないように学校に休まず行きました。

親と一緒に図形の問題を解いており、試験当日に解いていた問題と似たような考え方を
する問題が出てきたから、やっていて良かったと思います。他にも当日には「自分なら合格
できる！」と前向きに考え問題を解いたことで緊張がほぐれ、全力を出し切ることができま
した。

何回もくり返し九段の過去問を解き、復習ノートを作って、次にやる時には満点を取れる
ようにしたこと。作文は400字程度のものを書いていたので、体験を要約し、筆者の意見
を明確にし200字程度に収まるように書くこと。九段の入試でよく出題される時事問題
に備えるために、普段からニュースを見たこと。

入試の一週間前から体調を整えて、本番の午前九時から正午までの間に実力が出せるよ
うに演習を続けたことです。

過去問はやっていて役に立ちました。模擬試験での時間配分の練習もしていたことで本
番であせらずに取り組めました。二百字作文を塾の先生に診てもらったこともよかったと
思います。

私は私立の併願として受けたので、私立の問題を解く時に式や解き方まで書くよう心が
けました。また、普段から文章を読んだ時に自分の意見をもつようにしていました。過去問
は塾にあるだけやりました。直しも自分が納得するまですることで2回目起きないよう
意識しました。

私の場合、私立を第一として勉強を続けていました。だからといって、「私立！！」とい
う感じの問題ではなく記述力を養うようにしていました。第一志望が適性検査とにしていた
こともあったため知らなかったことを考える力を身につけるようにしていました。「書く」
ということを苦にしない練習（勉強）をしていました。

過去問を時間配分に気をつけながら解いたこと。特に作文は先生にてんさくされたもの
をまとめて試験前に見直したほうがいい。また、学校の勉強は基本となるのでしっかりしま
した。

社会や理科の暗記系は何度も紙に書いて覚える。単語帳を使う。苦手な教科の問題はかな
らず1日1問は解くようにする。

基本的な計算問題や、円周率の3.14を使った計算の練習。九段中やその他の都立中高

一貫教育校の過去問題。物語文や詩など、独特な文章の読解。短い読解問題を毎日やる。新聞やテレビで時事問題を知る。本や新聞を読んで文章を読むスピードをはやくする。

塾でのテストや授業後に「復習ノート」というものをつくり自分ができなかった問題の解き方や授業でやった問題・内容を書き、間違えた問題は次やって間違えないようにしたり、授業でやった内容を覚えるようにした。

塾でもらった教材の間違えた問題を別のノートに解き直すことで苦手な問題を別のノートに解き直すことで苦手な問題をなくすことができた。九段中の過去問だけではなく、他県の過去問なども取り組んだことで様々な問題に対応することができるようになった。

私立中学校の勉強は適性検査2，3で役に立った。作文は短い字数の中にも具体性をもたせることを心がけた。また目標を九段中ではなくその上のレベルの学校に設定することで自然と九段中のレベルまで到達することができたのだと思う。

今までの貴校の過去問を解いたり5年生から天声人語を読んだりしていたこと。毎日少しでも勉強をすること。解いた問題はすぐに丸つけをし、直しをすること。試験の時間が余ったら見直しをすること。問題を解く時は自分がわかる問題から解いていくこと。一回は全ての問題に目を通し、解く順番を決めること。

過去の記述の問題を何回か解いたことです。

グラフの読み方を変化について。

塾での授業のなかにあった、自分が気に入ったテーマについて調べ、自分の考えを書くことです。

私は最初は私立の中学校を目指して勉強していました。そのため、理社の基本的な知識や算数の計算のスピード、漢字など身につけていたので問題をより早く、正確に解くことができました。また、私はすごく作文が苦手でしたが、なぜできないのか見直したところ、時間が足りないということに気付きました。そこで作文から解くという手段を実行すると作文の点数が上がりました。

要点をできるだけ短くまとめておぼえやすくする事。

私は最初から九段一筋でした。全国の中高一貫校の問題を解くことで、様々な問題にふれ

ことができ、毎年どのような問題が出るか分らない九段の問題への不安を少なくすることができました。また、12月からはひたすら過去問を解きました。何回も繰り返し解くことで、時間配分の感覚をつけることができ、どんな問題でも解けるという自信ができました。本番は、絶対に九段中に受かってみせるという強い気持ちをもつて最後まであきらめずがんばることが大切だと思います。

11月までは全国の過去問を解いて、それからは九段の30年の分までそれぞれ3回ずつと、他の都立中高一貫校の過去問を解いた。特に九段の過去問をそれぞれ3回解いたのがよかったと思う。

九段中を受験するために特に取り組んだものは、作文です。私は受検本番にあせらないよう自分がした体験の中から3つを試験前に選んでおきました。また、九段の問題の中にたくさん入っている、記述の問題の練習も大切です。私立の勉強をすることも重要です。本番では問題を配られる前にマスクを外し、試験中の集中力を上げるとよいです。

1年生の時から通信教育を使って、家庭学習を毎日続けたこと。分らないことがあったら分るまで親に質問して分るようにしたこと。

私立向けの受験勉強もしていました。最初は文字数が多いだけで後回しにするなどの抵抗がありましたがにげずに授業や過去問に取り組むうちに字数への壁がなくなりました。また、たくさん過去問をときある程度の傾向を知ること大切だと思います。そして、私はあまり読書をしてなく読むスピードが遅かったけど線を引き問題を解きやすくしました。見直しは主語述語の関係、誤字脱字を重点的にするといいと思います。

過去問を繰り返しといて、ペース配分を感覚で覚えるようにしました。特に適性検査1の記述問題を時間内で終わらせることが苦手だったので、繰り返し練習しました。

文章を要約する練習をしたこと。

社会科の問題で資料からの読み取りを何度も行い、読み取りになれることで本番中でも落ち着いて行えた。国語では様々な文字数やお題からたくさんの作文を書き、作文という分野になれることをし、本番でも基本のこともふくめしっかりと行えた。

私は小学生新聞を毎日読んでいました。読んだ後に学校の宿題の日記に自分の考えをまとめる練習をしていました。また、公立中高一貫校用の模試をたくさん受けて長文問題を時間内におわらせられるようになりました。そして受験期には練習でほかの学校の適性検査

の試験をたくさん受け、2月3日の本番に臨みました。

自分の意見・考えを書かせる問題をたくさん解いたこと。

過去問を繰り返し解いて九段の傾向をつかみ、間違えてしまったところをノートを作り何回も復習したことです。ノートを試験の前に見て「自分がやれることはやった」と自信ができました。

学校の宿題の自主学習での1ページぎっしりと書いた日記。九段中等教育学校の過去問。

受験一週間ほど前から、マスクを着用するようにし、前日は早めに寝たこと。そして、受験当日の朝にあわてないよう、2週間前ぐらいに筆箱の用意をしておきたこと。学習面では、苦手な漢字を前日まで復習することで「漢字は大丈夫」という気持ちをもつことができ良かったです。他にも夜遅くまで勉強をしすぎずきちんとすいみんをとったり、ほどよく遊んだことで体調も良くリラックスして本番をむかえることができました。しかし、なによりも心強くいられたのは「自分は大丈夫」という思いだと思います。気持ちはとても影響するので気持ちを強くもつことが何よりも受験に大切だと思います。

私が本格的に勉強し始めたのは6年生の1月頃でしたがそれからはたくさんの過去問や類題を解きました。やはり、短期集中は大切だと思います。他にも、勉強をつめこみすぎず、気分転換のために近所を散歩したり本を読んだり美術館を巡ったりして気分をリフレッシュしました。また、寝る時間はいつでも同じような時間に設定し、なるべく規則正しく生活できるように心掛けました。本番はなるべくきんちょうしないように日常から何事も楽しむことを徹底したほうが良いと思います。これから受検するみなさん、がんばってください。

60字の短い作文は点数が高いのでいろいろなお題で60字作文を書きました。計算が速いと問題も速くとけるので、基本的な計算も何回も練習しました。九段は「～を説明しなさい」という問題がよく出るので、物事を筋道立てて説明する練習を過去問でたくさんしました。適1の順説や逆説を考えてあてはめる問題は毎年出るし、比較的簡単な問題だから確実に正解するようにくり返し解きました。

様々な学校の過去問を解いて、丸つけやり直しをしっかりとやることでだんだん問題の解き方が分ってきました。また、何回も問題に取り組むとひらめき力がついて問題を解いているときはひらめき力と知識が大切だと思います。塾で問題を解いてから先生が一個ずつていねいに説明してくれたことも力になったととても実感しています。

塾の同じ学校を受ける人が集まる特訓に参加したことで仲間と高め合うことができた。過去問を何回も解き、特に作文や記述は塾の先生に細かくアドバイスをしてもらったこと。習い事も続けたことで、勉強が苦痛にならず楽しく取り組めたこと。

過去問をくり返し解きました。また、作文の練習を東京学参の問題集を使って練習しました。

九段の問題は一問一問長かったので、読む時間を少しでも短くしようと速読をやっていました。速読は目を速く動かしたり、広範囲を見られるようにトレーニングするものです。速読をやった結果、問題を解くのにかかる時間が大幅に増え、余裕をもって解くことができ、見直す時間も増えたため、字の書き間違いや計算ミスを見つけることができた。本番も、速読の力を使って速く読み一問一問丁寧に取り組むことができた。

塾で九段対策の講座をとったりしました。また、私は記述がなかなか書けず苦勞していたので記述対策講座をとったり、記述の多い学校の過去問で練習したのがよかったと思います。

私は過去問を3年分くらいやって本番ではなるべく空白にしないようにしました。また、作文帳1ページにニュースの内容をまとめる練習をしました。

私は算数が苦手だったので、割合や速さを復習しました。また、過去問をとき、どのような問題があるのかをしっかりとつかみました。当日きんちょうしないようにテストに慣れておいたことも合格の要因だと思います。

声の教育社さんが出版している過去問題集を解きました。声の教育社さんの過去問題集の適性検査1の最後の問題にある中の「自分の体験」を年ごとの問題にあわせてまとめました。

新聞スクラップというものを毎週かならずやっていて、それが受検するとき、何かを説明する問題をするときに役立ったと思う。そして、九段中の問題に慣れるために九段中の過去問をほぼすべてやり、間違ったところはやり直すということをしていたのが役立ったと思います。

作文で文章の内容と合わせて自分の体験を書くこと。グラフの読み取り、文章をよく読み文章からヒントを得ること。日常生活からたくさんの体験・経験をすること。過去問を10月くらいから週に1年分10年間を2周解くこと。公立だが、私立に出る問題を解いたりし

て知識をたくわえること。

進学塾に通い、受験に必要な「計算力」「文章力」「考える力」を身につけたり、模試や学力テストの結果で自分が苦手とすることを見つけてそのこと中心に深く学びを広げたりすることです。他にも知っているけれど説明できない言葉があったらすぐに調べ覚えるために声に出すということもやっていてよかったなと思います

受検をするためにまず必要なことは「集中力」だと思います。過去問を解く時私は「今日はこのページまでやるぞ」と目標を定めて決めた目標は集中してかならずやりとげてきました。そして、過去問をくり返し解き、気分を変えたい時には計算問題を3ページほどやりました。また、集中力をとぎらせないように「計画表」を作りました。「計画表」は自分で集中できる時間を決め、5分ほどの休憩時間をもうけます。それを一つの「単位」として時間割を作るのです。私の場合、1単位を50分と決め45分勉強をし5分を休憩とし、1週間ごとに曜日で分けて何時から何時までに何の勉強をしたのかを書き記しました。また、最初に1日の時間（24時間）から生活に必要な時間を引き、最大自分がどれだけ勉強できるのかを確認することも大切です。この「計画表」を作ることで達成感が芽生え自信がつくのでぜひ活用してみてください。

塾へ行ったこと

早寝早起き、適度に遊ぶこととたくさんの本を読むことです。

受検する一か月ほど前から2，3年分の過去問を解いた。

過去問を解いた。図形の問題など、自分の苦手な種類の問題をたくさん解いた。

過去問は10年分をやり、間違ったところはできるようになるまで解き直しをし、記述は塾の先生に添削してもらいました。通信教育では中高一貫校対策問題をしていたことがよかったと思います。

過去問題、自分の苦手な速度についての問題の二種です。

九段の過去問を解くことも良いことかもしれないけど自分はたくさん勉強しすぎないことやプレッシャーを感じすぎないことなど体調面や精神面のことを意識したいです。

塾で勉強した。適性検査1では問題が多いから読解を速く解くためにコツをまとめたり、

とにかく多く解く練習が役に立った。適性検査3で図形の問題が出やすいから練習しておいてよかった。

字数制限が大きい作文を何度も練習する。繰り返していくことで作文の組み立て方に慣れていき、短い作文にも対応することができるようになった。学校の授業はしっかりと聞く（確実に理解しておく）

父が新聞やテレビで取り上げられている身近な話題や出来事についてくわしく教えてくれました。その内容を自分で理解できるようにして、説明する力や考える力を増やそうとしました。また九段中等教育学校に似ている問題や過去問を塾や塾の合宿などで解き直しました。

夏休みごろから九段中等の過去問を解いていました。10年間分を解き終わると自分が苦手な問題を繰り返し解きできるようになるまで練習しました。受検の一週間前ごろになると、もう一度基礎を解きなおしました。

通信教材をきちんと6年間続けた事です。それによって塾に行かなくても継続して学習しているという自信をもつことができました。そして九段の過去問を繰り返し解いた事で適性検査に慣れることができました。

理系と文系では、暗記などをするのではなく「考える力・資料を読み取る力」を付けました。また、作文ではどのように書けば相手に伝わりやすい文が書けるようになるか考え、5, 6年生で努力しました。

読解力を高めることや過去問を解くことをおすすめします。また、算数の問題集（文章題）やグラフから読み取る問題集を解くことでより、自信がつきます。

天声人語を書き写すこと

過去問の解き直し

勉強をしつつ息抜きをした。勉強方法は、過去問を7年分やりそれを繰り返ししやった。他にもクイズ番組を見てひらめき力を養った。ぼくはこれをやっていたよかった。

時間を決めている中での学習。

塾の勉強をしっかりとやったりクイズ番組をよく見ていた。

スイミングで心身共に成長することができた。飼育しているカメをずっと見て安心することができた。

基礎をおさえて応用を解けるように、学校の問題を復習し、色々な学校の過去問を解きました。

作文が苦手だったので作文のドリルや過去の問題をくり返しました。また、理系が得意だったので、理系をもっと伸ばすためにテキストを多く解いて計算を速くするようにしました。

苦手な分野を特に勉強し、得意な分野をコツコツとのばして工夫しながら受検にのぞんだ。また頭がいい友達の近くにいたことがよかったと思う。

同じような問題を出題する学校の問題を解いたこと。

過去問を数年分やりました。今までの問題を解くことで問題の趣旨傾向が分り「これについての問題を出すならこういう問題が出るだろう」ということも考えることができました。また、その年に起こった出来事について自分の意見を述べた作文を書きました。作文で使える言葉遣いを学べるだけでなくその年に起きたことについて自分の意見をもつことにもつながりました。

解き方と出る問題で時間を増やし苦手な問題に時間をかけれたこと。

4年生から通信教育を利用しました。本格的な受検勉強を始めたのは5年生の3学期からでその間家では計算や漢字、理科、社会などの問題や読解力をつける問題集などをやりました。6年生では、冬期講習にも参加し、1月からは集中できる環境で過去問を大量に解きました。

ルーローの三角形の線の長さを求める問題に使った、おうぎ形の線の長さの求め方を、塾や学校でやっていて良かったです。

6年生の4月から週に1回塾に通った。また、模試を受けると自分がいまどれだけ合格の可能性はあるか数字で見ることができるから模試は複数回受けたほうがいいと思う。それから、時事問題が出題されることも多いため新聞も毎日欠かさず読むといいと思う。

九段の過去問を何度も見て聞いて、その傾向への対策を行い模試にもたくさん参加した。

九段中は割と問題が多く、最初は過去問をすべて解くのも一苦勞でした。ですが7けた÷8けたの計算をする、規則性、図形の難しい問題を素早く解く練習など頭の回転を速くできるようにしました。そうすることによって本番緊張してた自分に少し余裕を与えたのだと思います。他にも漢字の練習にも少し力を入れました。漢字は作文のために練習しました。作文は漢字を一度間違ってしまうと2点引かれてしまい、最大15点引かれてしまうので、漢字のミスが無くなるように努力をしました。

塾で勉強した社会や理科の演習が役立ったと思います。自宅では「スフィンクス」という適性検査対策のテキストを繰り返し勉強しました。

ぼくは勉強をたくさんしたことも良かったと思うけれど、その間に自分のしゅみをしたり、友達と遊んだりする息抜きが大切だったと思います。ずっと勉強して内容の質が悪いよりも短い勉強で内容が良いものにし、あまった時間で息抜きをすることで心に余裕ができたのだと思います。また、作文が苦手だったので作文の練習をいちからやったことがよかったです。

学校や塾で出された宿題を期限までに終わらせ、提出することです。分らない問題があれば自分自身で調べ理解し苦手であった算数（理系）を克服することができました。

いつまでに、何をどれだけやれば良いかをはっきりさせて、スケジュールを組み立てたことです。

私は九段中を受験するにあたって、適性検査1，2，3に分けて具体的な対策をした。適性検査1の対策ではまず説明文や物語文、詩などの読解方法を学んだ。そして九段中では作文が出るため、様々なテーマの作文を書いた。適性検査2は他と比べて問題が多いため、資料の分析問題や記述を論理的に書くことを少ない時間で行う練習をした。適性検査3は、後半にすこし応用的な問題が出るため私立の問題を使用し、練習した。

塾のテキスト（算数）をこつこつやったり、公文で計算スピードを上げたことが適性検査2の100点（300点）につながったと思います。

僕は塾には行かず家で母と兄に教えてもらいながら下の問題集を使って学習しました。千代田区立九段中等教育学校10年間スーパー問題集。考察力で合格！公立中高一貫校適

性検査対策問題集 理科学的分野 算数的分野。進研ゼミ 公立中高一貫校受験講座。公立中高一貫校適性検査対策ステップアップ問題集 作文編 図形編 計算・一行問題編 規則性・条件整理編 また、公立中高一貫校適性検査対策模試にも6回（4月、6月、9月、10月、11月、12月）行きました。

過去問をたくさんとき、毎回やり直しをすること。

塾のe n a でやっていたピン本です。受検でルーローの問題が出てきてピン本でも同じような問題が出てきたので解きやすかったことです。

受検のためだけの勉強ではなく、基本をしっかり復習することがとても大切だと思います。

私立、国立対策の塾に通い基礎の勉強をしました。作文を書く力や読解力をつけるため、新聞を毎日切り取りその記事に対する自分の意見を書き先生や親に身てもらいました。

毎週1回の家庭教師。週4回の塾。12月と1月の間にあった合宿、塾の特訓。

NEWTON を読んだ

九段中や九段中に似せた問題を解き分からなかったところは分かるまで復習しました。

自分の得意分野を特に勉強し、その分野の問題を優先的にとくように勉強した。また、他の科目は基礎をおさえるようにした。

過去五年の過去問を解いた。小学校の教科書を読み返した。

試験が朝早くからあるから、頭を動かす練習をしていた。朝、本番の日に起きる時間に起きて脳トレのゲームをしていた。色々な本やマンガを通して社会や理科、きせつなどの情報を得た。とにかく何回も過去問を解いてどんな問題が出やすいのかを考えて対策をした。

NHK の動物に関してくわしく紹介している番組や、意見を考えさせる番組を見ておいたのがよかったと思います。

九段中は基礎問題が多く出題される傾向があったので計算のプリントや読解演習をできる限り取り組み問題を早く正確に解く練習をしました。この努力のおかげで本番では適性

検査の問題をすべて解き終える時間が早く残り時間の見直しを有効に使うことができました。得点を見ると、適性検査2，3がかなりの高得点だったので正確さが身についていると感じました。

ぼくは新聞のコラム欄を写したり要約をするということをしていました。それは作文に備え速く文字を書くためや精神統一その文の要点をすばやく見つけてまとめるためです。試験時それが役に立ちました。

私は復習と過去問に力を入れました。復習によって自分の欠点を日々見直してその欠点を意識して勉強するようにしました。また、過去問では何度も行うことでその傾向や問題の内容のはあくにつながり対策を練ることができました。この二つの点が合格への道だと思います。あとは受検前でも普段とおなじように生活して平常心で受検に臨むようにして頑張ってください。

適性検査1では、九段の過去問の他、塾のプリントなどを何度も行いました。また、他校の九段類似の問題や問題集に取り組みました。適性検査2，3では、九段の過去問を徹底して行いました。ぼくは、小さい頃から算数が好きで算数の本を読んでいました。その算数の本で「フィボナッチ数列」や「ルーローの三角形」などが取り上げられていたので、教科書に出てこないような内容がのっている本を読むのをおすすめします。

まず過去問を解いてみて、適性検査のことをよく知ったほうが良い。

毎日、漢字、計算少しずつやった。息ぬきは多くしていた。入試直前まで多くのテストを受けた。自分が習っているところ以外の塾のテストも多く受けた。間違えたところは印をつけ次の日にもう一度解いた。何度も間違えた問題や大事なポイントはノートにまとめた。

最初はいろいろな問題を解くことで問題を解くことになれて、その後過去問をしっかりと何度も解いたこと。

約200字の作文の構成方法。一つ一つの問題に時間をかけずにすばやく解いていくこと。文章をちゃんと読むこと。2，3回読んでも意味が分からなかったら次の問題を解いていくこと。

私の場合はサッカーやゲームでしたが、勉強の合間に自分の好きなことをしてリフレッシュすることが大切だと思います。

作文の練習：読み手に伝わりやすいように書くことを練習した。過去の問題集：必要な知識が身についた。計算と漢字：計算の間違いや誤字をなくすこと。志望校を一校にしたこと：集中力が増し、覚悟が決まるため。

毎朝新聞を読んでスクラップし、要約とその記事に対する感想を書きました。過去問を数えきれないくらい解きました。大きい桁の計算問題をたくさん解きました。毎回テストの後に解きなおしをするようにしていました。

九段の過去問やテストなどの解き直しを主にしました。特に最近の傾向をわかるためにH30、29、28近くの過去問を解きました。他にも公文で計算問題を多く解き、計算力を身に付けました。気分転換には犬の散歩や家の手伝いなどをしていました。そして、一番大切なことは気持ちだと思います。九段に行きたいという気持ちで一生懸命に勉強をし、本番は自信をもって望み合格という文字を目にすることができたからです。

ぼくは5年生から九段中を受けることに決め、受検まで自分なりに毎日コツコツとやってきたことが結果につながったのだと思う。自分の場合「これをやっていてよかった」と思ったものは過去問だ。10年間の過去問を解いていく中で九段中の傾向がよくわかり、受検当日も不安なく迎えることができた。特に自分が苦手な作図を練習した。今まで九段中は作図が出題されていたので、自分に合ったコンパスを選び、九段特有の作図をがんばり得点できるようにした。

塾の九段中対策特訓でやった過去問や塾で配布された毎日やる基礎的な計算や漢字のテキストをやったことで解き方が身についたこと、また九段中に入ったら自分がやりたいことや姿を想像し、その夢に向かって頑張ったこと。

過去問の10年分を3回やりました。家では塾や学校の宿題、過去問以外はあまりやらない代わりに塾では集中するようにしていました。勉強をやり過ぎなかったため「疲れた」とならず、一つ一つ最後の問題まで集中できました。僕の大好きな水泳もやめることなく週2でスイミングスクールに通いました。メリハリをつけることでここまでやってきたのだと思いました。

とにかく復習することと過去問を解くことが大切です。また、ぼくは九段の文化祭で作った和とじ本で「大切ノート」という大切だと思ったことをまとめるノートを作りました。このように自分で工夫して勉強することがやっていてよかったと思ったことです。ぼくは6年生の9月から受検勉強を始めましたが合格できました。今までやってきたことを信じて自分に自信をもつことがとても大切だと思いました。

過去問の解き直しを何度も行い、貴校の傾向になれたことがやっていたよかったと思った。勉強をする際、30分ほどの休憩を入れることで集中力が切れないようにした。本番直前には、合格した後のイメージをふくらませて「合格する」という気持ちを強め、集中力を高めた。

私は理系が得意で作文が苦手でした。だから得意な理系を中心に勉強をしていました。また、苦手な作文は習い事の先生にアドバイスをもらいながら私の書きやすい体験を見つけミスのない作文を目指してひたすら作文を書き続けていました。すると作文も上達することができました。また私は私立の学校も受検する予定だったため、私立を受験するための対策もしていました。私立の勉強をすると問題を理解する力が高まり、問題が解きやすくなりました。

ぼくがやっていたよかったと思ったものは二つあります。一つ目は今まで出た問題を過去問で解いたことです。理由は過去問を解くことにより、九段中学の出題傾向が分かり、解き方がわかることができたからです。二つ目は雑学などのいろんな知識を少しでも身につけることです。理由は、九段中等の出題傾向として身の回りのものが問題になったり、よく問題を読めば簡単な問題が多いからです。ぼくはこの二つのことにより力を入れたので受かることができました。

計算のプリントを行い、一問もミスがなくなるまでくり返し行った。特に3.14の計算。過去の問題をたくさん解き、できなかった問題にはチェックを付け、チェックのついている問題の解説を読み、出来るまで何度も解き、出来たらもう一度問題を解き、得点が満点が取れるようになるまでくり返し解きました。サピックスの時事問題がのっている本を読んでよかったと思います。

<九段中等教育学校アクセスマップ>





千代田区立九段中等教育学校

所在地 〒102-0073
東京都千代田区九段北二丁目2番1号
電 話 03 (3263) 7190
ファクシ 03 (3288) 3499